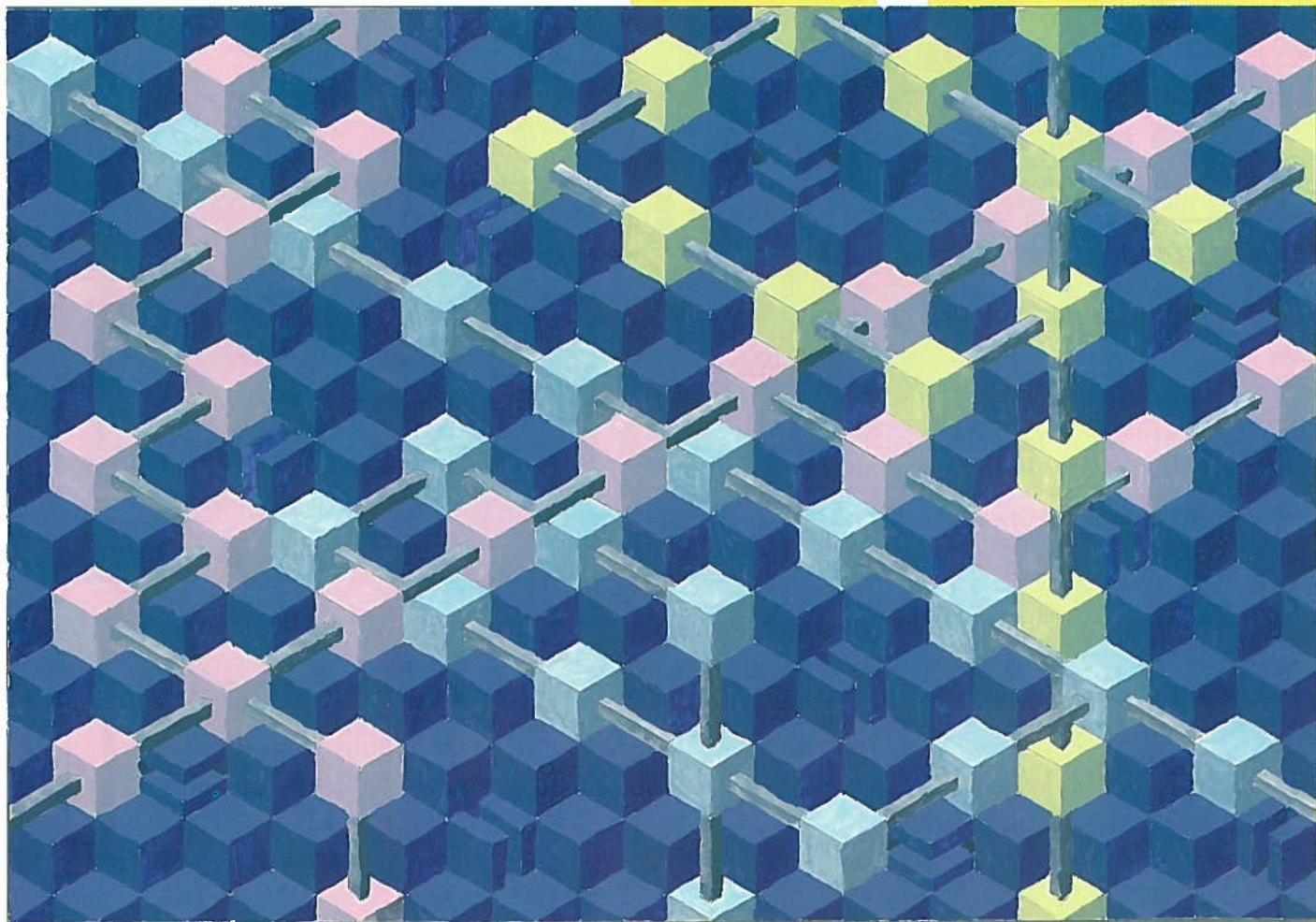


山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

12

明日を拓く — 成果を検証する —



■シリーズ「今どき学校・園 ③」

◎地域に貢献する高等学校

山口県立柳井商工高等学校	校長	松本 博己
山口県立柳井商工高等学校	建築・電子科3年	風呂川明季
山口県立柳井商工高等学校	ビジネス情報科3年	寺尾 友希

◎社会科教育の今

山口市立仁保小学校	校長	内富 徳哉
柳井市立柳井小学校	教諭	千々松哲大
防府市立右田中学校	教諭	中野 稔

◎わが園のブーム

岩国市立玖珂幼稚園	PTA会長	平野 祐子	
学校法人梅光学院	梅光学院幼稚園	園長	松永 章

■わたしの潤い 下松支部

熊毛支部

■主な助成事業を紹介します

平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品

「不思議な空間の演出」

下松市立末武中学校 3年生(受賞時) 尾崎 雅

あなたのアクションは...

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

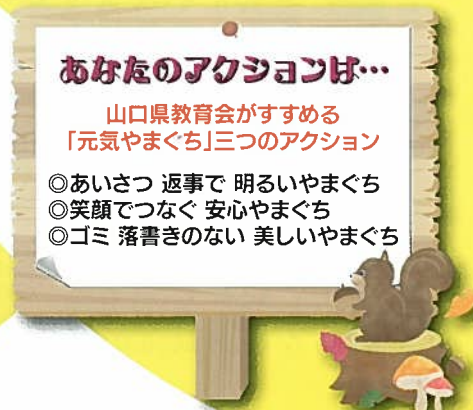
- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久



地域と共生する学校を目指して



山口県立柳井商工高等学校
校長 松本博己

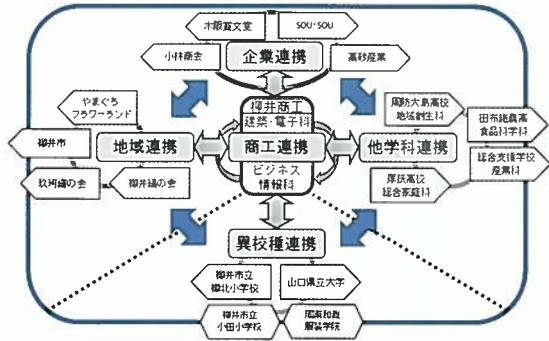


本校が取得した商標 871縞

商工連携の強み（専門高校の強み）

現在、社会は、人口減少、人工知能（AI）等技術革新の進展、Society 5.0、人生百年時代の到来など、大きな変革期にきています。このような中、本校は「商工連携」を核として、平成二十五年より、地域との連携を進めています。本校が所在する柳井市は、江戸時代「岩国吉川領の御納戸」と呼ばれ、「商都柳井」として発展していました。市内には、当時の面影を残す白壁の街並みが保存され、観光地となっています。歴史もあり、代々引き継がれている物産品が多く存在し、「金魚ちようちん」、「甘露醤油」、「柳井縞」などがあります。本校は、

伝統工芸である「柳井縞」に着目し、「柳井縞」の普及を柱として地域連携を進めてきました。この「柳井縞」を伝承されている会が、「柳井縞の会」です。「柳井縞の会」の方々のアドバイスをいただくことから商工連携はス



商工連携を核として広がる連携

ターゲットしました。まずは、建築・電子科建築コースの生徒が製図から行い、機械機を製作しました。その機械機を使用し、ビジネス情報科の生徒が機を織ります。完成した布地で商品開発・製造を行い、商品を流通させていきます。製図、機械製作から商品の開発・製造・販売・流通を一貫して行えるところが、商工連携の最大の強みです。この伝統工芸である「柳井縞」を柱として、地域と様々な連携に取り組んできました。

広がりゆく取組

この「柳井縞」をモチーフとした「商工連携」の取組は、大きな広がりを見せています。これまでの主な取組は次のとおりです。

- 平成二十六年 大型機械機の製作、イベントでの機械体験ワークショップ、ファッションショーのPR活動
- 平成二十七年 小型機械機の製作、小学校出前授業、商品開発・販売（キーホルダー二千五百個配布）、厚狭高校との連携
- 平成二十八年 柳井縞テキスタイルデザインの商標登録、安倍首相に柳井縞デザインのネクタイ及び昭恵夫人に布製バッグ贈呈
- 平成二十九年 周防大島高校（地域創生科）との連携、市内企業との連携による商品開発
- 平成三十年 全国産業教育フェア山口大会へのブース出展

地域への愛着を高める

地域連携の取組は、生徒たちに自己肯定感、自己有用感、思考力・判断力・表現力を間違いなく育成してきたと言えます。学校だけではなく、地域の方々のふれあい、生徒たちを成長させてくれました。専門高校の役割の一つに、地域を支える人材の育成があります。現在、多くの本校卒業生が、地元企業、公的機関等で活躍しています。「柳井縞」の取組の中に小学校への出前授業がありますが、これは幼いころから地域の伝統に触れることにより、地域への愛着を高めようという目的があります。本校の生徒たちも、この活動をとおして地域への愛着が深まってきたようです。

また、地域が発展する活動に貢献したいという気持ちも芽生えてきています。地域への愛着が深まれば、いずれ地域に戻り活躍してくれるのです。



柳井市立小国小学校での出前授業

更なる発展（コミュニティ・スクールとしての機能）

これらの取組を発展させるには、コミュニティ・スクールとしての機能を更に高めていく必要があります。柳井商工高校の持つ専門性を生かし、地域の活性化に貢献するとともに、学校経営の充実を図る必要があります。連携にあたっては、連携先とともに相互に発展していかなければなりません。今年度からは更に小学校へのプログラミング出前授業を本格的に取り組み始めました。地域連携（まちづくり）を行うことにより、生徒の地域に対する愛着を高め、将来地域の発展を担う人材を育成していきたいと考えています。これからも、地域と共生する学校づくりに邁進したいと思えます。

「柳井縞」の伝統継承を目指して



山口県立柳井商工高等学校

建築・電子科三年 風呂川 明季

私たちは、活力を失いつつある柳井市の地域活性化に向け、柳井商工高校まちづくりプロジェクトチーム（七年度今年度二十四名）として伝統工芸「柳井縞」の伝統継承と普及活動を行っています。

柳井縞の定義は、①手織り②縞柄③木綿 です。江戸時代からの歴史がある手織り木綿織物ですが、機械化の普及で大正時代に幻となりました。これまで私たちは大型機械織機と持ち運びが便利な小型機械織機を製作し、県内外のイベントで柳井縞の機械織り体験ワークショップ、ファッションショーへの参加、出前授業を行ってきました。

小学校の出前授業では、本校が製作した小型機械織機を使用し、柳井縞の伝統継承につなげるため、地域の方々のご協力をいただきながら、高校生が先生となって柳井市立小田小学校六年生を対象に一年間を通して実践しています。私は普段は教わる立場ですが、いざ教える立場になると、とても緊張しました。先生から「授業は、準備で全てが決まる」とアドバイスをいただき、小学生に分かりやすい授業をするため、クイズ形式のプレゼンテーションや説明パネルを作って工夫しました。クイズの時

に、皆が積極的に手を挙げてくれたのが嬉しかったです。小学生へのアンケートで、「最初は織ることが難しかったけど、高校生に教えてもらってできるようになった」、「柳井縞を全国に広げたい」など、前向きな意見がもらえました。小学生も興味を持って、楽しく活動してくれているので、普及活動や伝統継承に繋がっていると思います。

私たちの研究は、機を織ることと同じようにとても地道なものです。いつか「柳井縞」が全国でも名を知られる織物になることを夢に走り続けて行きます。



出前授業の様子と柳井縞の作品（手前）

プログラミング講座による地域貢献



山口県立柳井商工高等学校

ビジネス情報科三年 寺尾 友希

今年の夏、私たち情報研究部は新しい形の地域貢献に挑戦しました。

小学校へのプログラミング出前授業です。私たちは、普段学んでいるプログラミング技術を生かし、小学生プログラミング講座を開きました。また市内の小学校で、先生方に向けたプログラミング講座も開かせていただきました。講座では、プログラミングを楽しくわかりやすく学べるように、ロボットを活用しました。

先生方や保護者の方は、馴染みのないプログラミング教育というものに不安を感じておられました。しかし私たちの講座を通して、その不安が小さくなったと答えてくださる方が多く、私たちの活動が意味の深いものであるということを実感しました。

小学生にプログラミングを分かりやすく説明をすることは、簡単なことではありませんでした。しかし小学生が内容を理解して「わかった!」と笑みを浮かべた時、とてもうれしかったことを覚えています。またプログラミングを教えるだけでなく、活動中にたくさんのお小生と関わることで、教えていた私たち自身も楽しい時間を過ごすことができました。

小学生や先生方に「教える」という立場で接したことは、高校生の私

にとつて、とても貴重な体験となりました。四日間の短い期間でしたが、あの時の記憶は色濃く残り、私の大きな成長の糧にもなりました。

私たち高校生が持つ力はどれほど地域貢献に役立つのだろうか。そのはつきりとした答えはわかりません。ですがその可能性は無限大だと思います。この活動を通して、地域貢献の新たな形を発見したと同時に、地域の方と関わることの楽しさも改めて感じました。社会に出てもこの気持ちを忘れず、地域を愛せる人になりたい、そう思いました。



小学校の先生を対象とした出前授業

社会科学学習の充実を目指して 社会科が好きな児童・教師に



山口市立仁保小学校
校長 内 富 徳 哉

社会科、今どきの課題

二期期に入り、県内や県外から公開授業研究会の案内が届くことが多くなりました。そのほとんどが、国語科や算数科、そして最近では道徳科や外国語科が増えてきており、社会科の研究会はほとんど目にすることはありません。

その結果として、社会科の授業を公開したことのない教師や社会科の公開授業を参観したことのない教師が増えてきています。いつの間にか社会科は「教材研究が大変な教科」「教科書をそのまま教えるだけの教科」「どうやって指導すればよいかわからない教科」となり、社会科の授業は敬遠される傾向にあります。この現状は非常に寂しくもあり、また危機感を募らせているところなのです。

社会科の授業はそんなに難しいものなのでしょうか。また、社会科の授業を通して、我々教師は子どもたちに何をどのように教えていけばよいのでしょうか。

学習指導要領の変遷から考える

昭和二十二年のわが国初めての学習指導要領社会科編（試案）第一章序論において、「今度新しく設けられた社会科の任務は、青少年に社会生活を理解させ、その進展に力を致す態度や能力を養成することである」とあります。その方法として「青少年の生活における具体的な問題を中心とし、その解決に向かつての諸種

の自発的活動を通じて行わなければならない」とあります。つまり社会科における「問題解決的な学習」は学習の方法原理として、七十年を経た今も変わっていないと考えます。今日に至るまでの数回に渡る学習指導要領改訂の変遷をたどっても、小学校社会科では、問題解決的な学習を通して「公民的資質の基礎を養うこと」を究極の目標としてきているからです。今回の改訂においても「公民としての資質・能力の基礎を育成することを旨とする」とあります。

戦後の社会においても、また、「Socially 5.0」と言われるこれからの社会においても、小学校社会科では、公民としての資質・能力の基礎を育成していくことが大切なのではないのでしょうか。

どのように社会科の授業を仕組むか

(1) 子どもの既存知識とのずれを生じさせる学習課題の設定

子どもにとつてのずれや驚き、意外性を表出させる資料や事実を提示し、既存知識とのギャップから問いを引き出していくと、子どもたちの知的好奇心が刺激され、見通しをもつて主体的に学びを進めていくことが期待できます。例えば、ごみの処理の学習で、「〇市のごみの分別は、昔は三分別だったのに、現在は八分別なのはなぜか」という学習課題を設定し、この課題を追求していくことで、子どもたちはリサイクル

の重要性や清潔な生活を求める市民の姿について意欲的に学習を進めていったという事例があります。

(2) 校区内の歴史的素材の活用

校区内には地域の歴史を知ることができる素材がごろごろしています。その一つが、地名に着目することで。例えば、私の勤務校区には「城山」という山があり、そのふもとには「一之瀬（いちのせ）」という集落があります。「一之瀬」は昔は「血の瀬（ちのせ）」と呼ばれていたこと。このことだけでも、地域の歴史が学べそうです。「〇〇戦国物語」ができますね。このように、地名の由来などを調べ、その背景を探求していくことで、地域の歴史学習を展開できるのです。

これらの事例は、ほんの一例に過ぎません。大切なのは、地域に出かけ、教材研究をしつかり行うことではないのでしょうか。



地域を知る（社会科地域巡検）

社会科の推進に期待して

これからの社会は、グローバル化や情報化がいつそう進み、社会構造や雇用環境が大きく変化することが指摘されています。そうした変化の激しい社会をよりよく生きていく資質・能力を育成するために、社会科教育に期待されている役割は大きいものがあります。その期待に応えるために、我々教師は、社会科教育の重要性を十分理解し、その推進のために努力していく必要があります。社会科が好きな子どもを育成するために、まず、社会科が好きな教師になつてもらいたいと願います。社会科の授業に積極的にチャレンジする教師が増えることを期待しています。

よりよい未来の社会を築く子どもを
育てる社会科学習



柳井市立柳井小学校
教諭 千々松 哲大

子どもが問いを抱き、主体的に学習問題に迫っていきながら、社会的現象の見方・考え方を成長させることをめざして研究を進めている。ここでは、第六学年「平和で豊かな暮らしをめざして」の実践を紹介する。

①時間軸を意識した単元構成

単元の最初に、第二次世界大戦終戦直後と一九六四年の東京五輪開催時の我が国の様子を比べる時間を設けた。東京五輪が戦後十九年で開催できた事実を伝えると「つらい状況だったのに、わずか十九年で五輪を開催できたのはなぜだろう」という学習問題を立てて、戦後の政策や取組について調べるなど、主体的に学習に取り組む姿が見られた。

②学びを深める新たな学習問題

一九六四年の東京五輪を開催できた理由についてまとめた後、産業の発展の裏で、公害に苦しむ人々がいたことや、日本橋の風景が変わってしまったことなどを知る場面を設けた。子どもたちからは、「発展して欲しいけれど、環境を悪くするのは良くない」「どうにかしないとイケない」などの発言が見られた。そこで、二〇二〇年の東京五輪について話題を向けると、「対策しているのかな」「インターネットで調べてみようよ」

よりよい社会をつくる主権者を育てる
社会科学習をめざして



防府市立右田中学校
教諭 中野 稔

私は、「自分だけではなく、他者や全体の幸福を考える生徒」、「今だけでなく、過去に学びながら未来の幸福を考える生徒」を育てたいと考えている。

現在、勤務している右田中学校では、全学級で新聞を使ったスピーチを朝の会の時に行っている。担任している三年生は国内外のできごとに関心をもって記事を集め感想を語っており、クラスメイトもそのスピーチを楽しみにしている。しかし、一歩踏み込んでそのできごとの課題や意味を考えることには苦手意識をもっているようである。

そこで、私は社会科学授業で、社会と自分自身との結びつきを見出し、ほしきと考え、実践を工夫している。例えば、「安楽死・尊厳死」を取り上げた授業では、「医師として、患者や家族の願いを大切にしようとする優しさ」と、患者を最後まで看取る責任の両方を考えるのはとても難しかった。とある生徒が語った。これは、「患者・家族・医師といった異なる見方を踏まえて考える困難さや、自らの命の在り方について真剣に考えたこと」の証である。

また、「裁判権」についての授業では、当事者ではない第三者の心ない言葉が原因で裁判を断念せざるを得なかった

という事実から、日頃の言動やネットとの関わり方が人の人生を変えてしまうことに気付き、自分の行動について考えたいと述べる生徒もいた。

議論を行う授業は、活動に重きが置かれがちになる。だからこそ、私は、生徒の考え方や感じ方を切り口として、社会と自分とのかかわりを見出した。将来の生き方に必要となったりする社会科学の学習内容を厳選して授業に臨みたいと思う。そして、主権者の一人として自らの意志や判断・行動がよりよい社会をつくる原動力になることを生徒に伝え続けていきたい。



社会科「平和で豊かな暮らしをめざして」(授業風景)



授業風景(グループ討議)

PTA活動を通して



岩国市立玖珂幼稚園

PTA会長 平野 祐子

玖珂幼稚園の三十四人の子どもたちは、いつも笑顔が絶えず元気いっぱいです。

苦勞していた登り棒、今ではつべんまで登れるようになった年長さん、笑顔で「見て！鉄棒が出来るようになったの！」と嬉しそうに前回間にかブランコを上手に漕げるようになった年少さん。

「いっぱい遊ぼう！いっぱい学ぼう！」を合言葉に、園長先生を始めとする先生方のご指導のもと、子どもたちの日々の成長を実感し見守る事が出来て、保護者として本当に嬉しく思う毎日です。

さてPTAでは、週一回、役員の方々や、お手伝いをして下さる保護者の皆さまと一緒に、園児たちに絵本の貸し出しや読み聞かせをする「ひまわり文庫」活動をしています。

毎週火曜日、お知らせの放送をかけると、子どもたちは笑顔で一斉にPTAルームにやってきて、「今日は何を借りようかな？」「この本見なかったの！」と真剣に本選び。読み聞かせでは興味津々で私たちの声に耳を傾け、笑ったり驚いたり、子どもたちはいろいろな表情を見せてくれます。



「ひまわり文庫」活動

子どもたち「ありがとう」「面白かった！」と言ってくれる度にとてもやがいを感じ、「次は何を読んでもよいか？こんな飾り付けをしたら喜んでくれるかな？」と私たちも活動に力が入ります。

この活動を通して園児たちが本に興味を持ち、本を読む事が好きになってもらえるように、有意義で楽しい幼稚園生活が送れるように、出来る限りのお手伝いできたらと思います。これからも元気いっぱい、笑顔の絶えない玖珂幼稚園であり続けますように。

たけうま たのしいね！



学校法人梅光学院 梅光学院幼稚園

園長 松永 章

本園は現在、園児数六十三名の比較的小規模の園です。スクールモットーである聖書の言葉「光の子として歩みなさい」を中核として園児一人一人が大切にされる保育に取り組んでいます。子どもたちが、ありのままに自分が認められる体験を通して、「信じる力・望む力・愛する力」が育まれることを目指し、「キリスト教信仰に基づいた教育」「遊びを中心とした教育」「柔軟性のある世界観を養う教育」の三つを保育の柱としています。

最近、年中クラスでは竹馬がブームです。竹馬に乗れるようになりたい子、さらに上手に竹馬を操りたい子、それぞれが自分の思いを持って、竹馬を楽しんでいます。

本園では、秋の運動会で年長クラスが「竹馬行進」をして、様々なワザを披露します。この姿、そしてこれまでの練習の姿を見ている年中クラス、年少クラスの子どもたちにとって、年長クラスのお友達の「勇姿」は憧れの的です。自分もやってみたいという気持ちが高まります。

運動会が終わると、年中クラスでは保護者の方々と共に世界に二つだけの自分の竹馬を作ります。竹馬の丈夫な骨組みを作った後、いろいろな色のビニルテープなどを使って、保護者

の方々と一緒にカラフルでオリジナルな竹馬が出来上がりました。このような活動を通して、子どもたちの「やってみよう」という気持ちがさらに高まっているのだと思います。保護者の方々や協力してくださった方々にはたいへん感謝しています。

来年のこの時期には、驚くほど成長した子どもたちの姿が見られるだろうと、たいへん楽しみです。



年長クラスの「竹馬行進」

描く楽しさ、面白さを



下松支部

弘中 順一

私の造形との出会いは、下松小学校一年生の時、土曜の午後、小学校で開かれていた「図画クラブ」です。静かに集中して描く雰囲気の中で、そこで絵を描く楽しさを学びました。最近、幼馴染みとクラブの話をする時、「楽しかった。面白かった」と当時をふり返ることができました。

教育学部美術研究室に所属した大学の卒業制作は、興味があったデザイン分野の「絵本の挿絵」を選びました。山口県の民話を素材にし、木版の黒い線が持つ独特の力強さやよさに惹かれ、木版の技法を使った挿絵を制作しました。これが私の作品づくりの原点です。

この後、木版の技法を基に単純化した形で場面をつくる「字のない絵本」を創作することに視点を移して制作をはじめました。イタリアのデザイナーのイェラ・マリ、ブルーノ・ムナリの絵本、日本の琳派のデザイン性を研究しながら、最初は山口県美術館へ、後は公募展「美術文化展」に出品してきました。

二人の子どもや愛犬、さらに四人の孫をモチーフにして、日常の出来事や旅行で出会ったことをデザイン化して制作しています。最近の作では、退職前に習い始めたチェロを弾いている

自分を入れたり、長野県の旅行でスケッチをした別所温泉の丸窓電車を入れたいと思っています。

卒業制作から四十五年目になります。年一〜二作と寡作ですが、毎年連続して制作してきたことが自慢です。作品は、展示を考え、原画をパネルに貼り付けていましたが、退職記念にラブラドル・レトリバーの愛犬「ラン」をモチーフにした「ランちゃんみてみて！」の本を出版しました。



パネル仕立てにした原画

るん・るん・るんで前向きに



熊毛支部

松田 伸宏

退職してもうすぐ二年、お陰様で日々充実した日々を過ごさせていただいています。退職後に大切なことは、やはり自分が没頭できる趣味をもつことだと思っています。それは三つの「るん」です。一つ目は、走ることです。以前から何度もフルマラソンを完走しています。一番思い出に残るレースは退職の年に走った「防府読売マラソン」完走です。これからも健康維持を目的に楽しく走り続けたいものです。

二つ目は、作ることです。五・六年前からレザーの商品を見つけ、「なんだ、革を縫っているだけじゃないか」と思ったのがきっかけで、价格的にすぐに取り組むもので、道具を買い求めてさっそく作り、それからは見よう見まねで様々な作品を作っています。その後、急にミシンの魅力に引き寄せられました。ミシンなど全く興味のなかった自分が、今では複数台のミシンを使い、トートバッグやポーチやペンケースなどを作り、作った作品数は数えきれない数になりました。一枚の生地から作品になっていく過程が楽しく、また無心でミシン掛けに没頭する時間は特別な時間です。多くのバッグ類はバザーや、プレゼント等をしていきますが、自分の作ったバッグを使っていただけのことでもまたうれしいものです。



作品と栽培したみかん

最後は、育てることです。出身地、周防大島で父親が作ってきたミカン畑を引き継ぎ挑戦しています。特にイノシシから畑を守ることが大変ですが、瀬戸内の鳥々を眺めながらミカン色に色づいたミカンを取獲する喜びはこれまでの苦労が吹き飛ばすようです。人生百年時代と言われています。第二の人生を充実したものになるよう健康に気を付け没頭できるものを持ち、るん・るん・るんで前向きにすごしていきたいものです。

主な助成事業を紹介します

令和元年度に実施した助成事業です。
来年度の企画立案にお役立てください。

現職研修助成事業

学校の現職教職員の教育にかかる研修活動を助成によってサポートします。

○対象

- ・県内の学校
- ・同一校に勤務する教職員グループ
- ・複数の学校の教職員等で組織するサークル
- ・教職経験年数1年以上の個人

○対象とする研修

- ・教育課程の編成、実践、指導法の工夫、教材開発、評価の研修など
- ・研修会、研究発表会、講演会等の開催および研究集録等の刊行など
- ・研究発表大会、学会への参加や先進地の視察など

○助成金額および助成件数

種別	助成金額	助成件数	留意点
学 校	5万円 4万円 3万円	10件程度 20件程度 30件程度	1校につき1点を原則とする
グループ サークル	4万円 3万円	3件程度 5件程度	1校につき1件、大規模校は2件以内とする
個 人	3万円	5件程度	

※申請締め切りは、6月中旬（予定）

地域活性化活動助成事業

学校とそのPTAおよびグループ等が連携して実施する教育環境の整備、青少年の健全育成、地域の伝統文化・文化遺産の継承等の事業の推進をサポートします。

○対象

- ・趣旨に適合した一般団体および学校
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むPTA
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むグループ、団体

○対象とする活動

- ・地域の活性化を図る計画的、継続的な教育活動
- ・学校支援の活動、地域の子どものための教育支援および教育環境整備の活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

○助成金額および助成件数

助成金額	助成件数	留意点
5万円	10件程度	・1団体につき1件とする。 ・1校につき1件とするが、大規模校が諸団体と連携する場合は2件以内とする。
4万円	20件程度	
3万円	30件程度	

※申請締め切りは、6月中旬（予定）

教育団体研究助成事業

学校の教職員が組織する教育団体による教育研究活動の推進をサポートします。

○対象

- ・教育団体が主催する本県で開催される全国大会、中国大会等
- ・小学校教育研究会、中学校教育研究会、公立学校教頭会が実施する教育研究会

○助成金額

- 全国大会・中国大会等
各大会について

助成金額 5万円～10万円

- 小学校教育研究会、中学校教育研究会、公立学校教頭会が実施する教育研究会
各団体について

助成金額 15万円

※申請締め切りは、5月下旬（予定）

支部活動振興助成事業

山口県教育会各支部の地域の特性や実態に即した創意ある活動の推進を助成によってサポートします。

○対象

- ・山口県教育会各支部
- ・山口県教育会各支部と連携する団体

○対象とする活動

- ・支部組織・機構の整備、充実活動
- ・教育世論を喚起・結集する活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の保存・継承活動
- ・青少年の健全育成活動
- ・学校、地域との連携活動
- ・会員増募の取組

○助成金額

- ・年間助成金総額は100万円以内とし、その範囲内で事業内容等を勘案して助成金額を決定する。
- ・会員増募の取組は、新規会員募集のための経費等を助成するものとし、1支部につき2万円とする。

※申請締め切りは7月上旬（予定）

*このページでの「学校」とは、「小学校、中学校、高等学校、総合支援学校、中等教育学校、幼稚園、保育園、こども園」を意味します。